

施策評価シート(平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成 23 年 7 月 7 日

施策	15	市街地整備の推進	主管課	名称	地域整備課	関係課	
				課長	増田 伸之		

施策の目的	対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標名	把握方法や定義など		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度見込み	
	①市街地	①市街地面積	①市街地面積	市街地とは、月夜野地区は用途区域、水上地区はまちなみ環境整備事業で指定している湯原・鹿野沢・小日向のそれぞれ一部のエリア		ha	278.0	278.0	324.4	324.4	
②都市計画道路(計画延長)			都市計画区域内の都市計画道路		km	15.68	15.68	14.96	14.96		
③市街地人口			住民基本台帳による月夜野地区(後閑、真政、町組)、水上地区(鹿野沢、湯原)の行政区の人口		人	6,649	6,587	6,529	6,462		
①拠点機能が充実した市街地を形成する。		意図 (対象をどうい状態にするのか)	成果指標名 (意図の達成度を表す指標)	設定の考え方	把握方法や定義など	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
		①拠点機能が充実した市街地を形成する。	①後閑駅周辺の拠点機能が充実していると感じる町民の割合	直接的な指標		町民アンケートによる ※拠点機能とは、金融機関・病院・駅・郵便局・高速IC・駐車場・改良済み都市計画道路(延長)・学校・幼保施設・飲食店・都市公園・官公庁をいう。	%		-	-	-
②上毛高原駅周辺の拠点機能が充実していると感じる町民の割合	%						-	-	-		
③水上駅周辺の拠点機能が充実していると感じる町民の割合	%						-	-	-		
④都市計画道路の改良率	拠点機能の一つである都市計画道路の改良率は、直接機能強化につながる。		改良済み都市計画道路延長／都市計画道路(計画延長)	%	13.4	13.4	14.0	17.6			
⑤市街地人口の割合	割合が増加することで、拠点機能が充実したと考える。(若者の町外流出が多いという町の特殊性を考慮した指標)		市街地人口／人口	%	28.7	29.0	29.1	29.5			

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	①道路・区画整理事業に対する地権者としての協力をしてもらおう。 ②各種規制を理解し遵守してもらおう。	1) 町がやるべきこと ①整備計画を策定し、対象地域と合意形成を図る。 ②都市計画道路等の基盤整備を進める。

1. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）

① 成果指標における都市計画道路の改良率については、平成20年度13.4%、平成21年度14.0%、平成22年度17.6%で年々増加している。平成22年度には悪戸矢瀬線が一部供用開始されたことにより数値が向上した。
 ② 市街地人口は全体として減少傾向にある。市街地人口の推移を地区別に見てみると、月夜野地区(後閑、真政、町組)△0.65%、水上地区(鹿野沢、湯原)△2.13%、世帯数は月夜野地区1.08%増、水上地区0.48%増と、月夜野地区のほうが減少率が小さい。要因は人口の自然減が進む一方で、町内から月夜野地区へ転居するなど、社会増が影響していると考えられる。

2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）

① 平成20年度末の都市計画道路の改良率は、県平均が47.2%のところ、みなかみ町は14.0%であり、県内26市町村中24位である。
 ② 県内人口は減少期に入っており、一部の市町村を除き人口減少となっている。人口が減少しても市街地へ拠点機能が集約される地域と、市街地の空洞化が進んでいる地域に分けられるが、みなかみ町においては、人口減少が顕著であるものの、市街地人口の減少はゆるやかであり、市街地集約型と考えられる。

3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）

① 後閑駅周辺の市街地整備(まちづくり交付金事業)を進めてほしいという意見は多く、住民の期待水準は高いと思われるが、必要性を問う声もあり判断が分かれるところである。
 ② 上毛高原駅周辺は、終日駐車車両の排除や無料駐車場の整備を求める声が多い。
 ③ 水上駅周辺は、駅前広場の整備や廃業した旅館の撤去を求める声が多い。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括

① まちづくり交付金事業として、平成20年度から都市計画道路真政悪戸線の改良工事に着手し、平成22年度は用地買収や利根川に架かる橋梁の下部工を実施した。
 ② 道整備交付金事業として、平成21年度から都市計画道路悪戸矢瀬線の改良工事に着手した。道路の一部は矢瀬蟹峠土地区画整理事業区域内であるため、平成22年度に区画整理事業を完成させ、部分的に共用を開始した。
 ③ 平成21年度に上毛高原駅前広場周辺活性化検討会が、県、JR東日本、関越交通㈱、町の関係者により組織され、駅周辺のあり方が議論された。その結果を踏まえ、平成22年度には駅裏の町道に区画線とポールを設置し、違法駐車規制ができる構造にした。
 ④ 地域活性化・きめ細かな臨時交付金により、老朽化した都市公園の施設の改修を行った。
 ⑤ 水上駅前広場について、沼田土木事務所水上事業所により、歩行者動線の無散水化整備が完了した。
 ⑥ 後閑駅周辺整備の一環で、駅の利便性を向上させるため、後閑駅前駐車場を整備した。
 ⑦ 町道建明寺線の約50mを供用開始したことにより利用者の利便性が向上した。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

① 本町の市街地に該当する地域は、月夜野都市計画の用途地域(後閑、真庭、政所、月夜野、下牧の一部)、水上駅周辺(湯原、鹿野沢)、国道17号沿線(新巻・布施・猿ヶ京温泉の一部)と考えられる。町が市街地と定義するエリアの拠点機能充実度を町民アンケートで把握する必要がある。
 ② 市街地整備に必要な道路や公園等の整備を進めるため区画整理事業を進める必要がある。区画整理により秩序ある市街地整備が可能となるが、事業費も大きくなり、町も応分の負担を覚悟しなければならぬ。
 ③ 駅は拠点機能に欠かせない施設であり、整備にあたっては、長期的な視野のもとに進めていく必要がある。
 ④ 都市公園の遊具が老朽化し危険である。適切な維持管理することが課題である。
 ⑤ 水上駅周辺の廃業したホテル等が地域住民に不安をあたえており、防災と景観を考慮し、撤去する必要がある。
 ⑥ 上毛高原駅裏の違法駐車について、平成22年度で対策を講じたが、未だ違法駐車が無くならない状況であり、公安などに取り締めてもらう必要がある。
 ⑦ 最大の課題は財源の確保と地権者の理解を得ることである。